

2020年3月期 決算説明資料

2020年4月27日
神奈川中央交通株式会社



一般旅客自動車運送事業

乗合事業においては、4月に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生数の増加に対応するため、湘南台駅～慶應大学間で輸送力の増強を行うとともに、神奈川中央交通東(株)にて川崎市交通局より新たに1系統の受託を開始するなどの増収策を実施しました。また、10月よりドライバー異常時対応システム（EDSS）を搭載した路線バスを順次導入したことに加え、神奈川中央交通西(株)にて運行する空港リムジンバスにおいて、車椅子のまま乗降可能なエレベーター付き車両を導入するなど、引き続き安全輸送の確保や利便性の向上に取り組みました。しかしながら、養護学校など一部の特定契約輸送が契約満了となったほか、10月に発生した台風19号の影響による計画運休の実施や、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛や学校の臨時休校などの影響により利用客が減少し減収となりました。

貸切事業においては、神奈中観光(株)にて、新たな旅行エージェントとの取引を開始するなど積極的な営業活動に努めたことにより受注は好調に推移していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い2020年3月より貸切バスのキャンセルが相次いだ結果、稼働が減少したことにより減収となりました。

乗用事業においては、高齢の方や車椅子ご利用の方など、さまざまなお客さまが利用しやすいユニバーサルデザインの次世代型タクシー「JPN TAXI（ジャパントクシー）」の導入を引き続き推進しました。また、9月には決済機能付きタブレット端末を全車両に設置したほか、12月にはタクシー共同配車アプリの配車対応エリアを順次拡大するとともに、事前確定運賃サービスを開始するなど、お客さまの利便性向上に努めました。さらに2020年2月の運賃改定に合わせ、初乗り運賃500円や迎車回送料金を均一定額とする改定を行い収益力の向上を図ったものの、乗務員不足による稼働の減少に加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛の影響などにより利用客が減少し減収となりました。

以上の結果、一般旅客自動車運送事業全体の売上高は57,155百万円（前期比3.5%減）、営業利益は1,469百万円（前期比48.2%減）となりました。



エレベーター付き空港リムジンバス車両



ドライバー異常時対応システム（EDSS）

不動産事業

分譲事業においては、神奈川県内のほか、東京都内の物件を手掛けるなど広く分譲開発を継続し、横浜市都筑区や茅ヶ崎市小和田などの戸建分譲ならびに茅ヶ崎市菱沼の宅地分譲を行いました。また、デベロッパーとの共同事業として実施している藤沢市羽鳥などのマンション分譲についても順調に推移しました。しかしながら、当期は販売計画戸数の減少により減収となりました。

賃貸事業においては、引き続き高稼働率の維持に努め、前期に新たに賃貸を開始した「平塚市浅間町貸店舗」および新規テナントが入居した「港南中央ビル」などの賃貸収入が通期寄与したことなどにより増収となりました。

以上の結果、不動産事業全体の売上高は6,577百万円（前期比1.4%減）、営業利益は2,619百万円（前期比7.9%増）となりました。



横浜市都筑区荏田南4丁目新築分譲住宅（イメージ）



新型メルセデス・ベンツ「Aクラス」

自動車販売事業

自動車販売事業においては、神奈中相模ヤナセ(株)にて、7月にフルモデルチェンジしたメルセデス・ベンツ「Aクラス」や「Bクラス」のほか、8月にマイナーチェンジした「CLAクラス」の新車販売が順調に推移しましたが、「Cクラス」の販売台数が減少したことなどにより減収となりました。また、神奈川三菱ふそう自動車販売(株)にて、大型バスの代替需要が増加したほか、小型トラック「キャンター」の販売が順調に推移したことなどにより増収となりました。

以上の結果、自動車販売事業全体の売上高は31,801百万円（前期比2.6%増）となりましたが、他社との競争激化により粗利益が減少し、営業利益は289百万円（前期比2.6%減）となりました。

その他の事業

ビル管理事業においては、横浜ビルシステム(株)にて、4月より新たに金融機関の事務処理業務の一部や公営駐車場の指定管理業務を受託したことに加え、10月より宿泊施設の設備管理業務を受注したことなどにより増収となりました。

情報サービス事業においては、(株)神奈中情報システムにて、ドライブレコーダーなどバス車載器の代替やWindows 7のサポート終了に伴うパソコンの代替需要の増加などにより増収となりました。

商用車架装事業においては、横浜車輛工業(株)にて、積極的な営業活動により新規顧客獲得に努めた結果、トラック架装の受注が増加したことなどにより増収となりました。

流通事業においては、(株)神奈中商事にて、バスICカードシステム機器の代替を受注し、部品販売が増加したほか、バス営業所の建替に伴う空調や厨房などの設備工事を受注したことにより増収となりました。

レジャー・スポーツ事業においては、(株)神奈中スポーツデザインにて、4月より子ども向けスポーツスクールを核とした小規模運動施設「神奈中スポーツコンポBB茅ヶ崎」を開業したほか、9月に「フィットネスクラブライフティック平塚」にて、コラーゲン岩盤浴施設を導入するなど施設をリニューアルし、会員獲得に向けた施策を推進しましたが、新たな競合施設の开店に伴う競争激化のほか、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う営業自粛の要請を踏まえた施設の休業などにより減収となりました。

飲食・娯楽事業においては、前期に新たなブランド展開を始めたラーメン店の2号店として7月にオープンした「北海道らーめん麺処うたり相模大野店」や、10月にオープンした「ドトールコーヒーショップ日本橋馬喰町店」が順調に推移したものの、T S U T A Y A 3店舗の閉店影響に加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い商業施設の休館や営業時間短縮の影響により減収となりました。

ホテル事業においては、宿泊部門にて旅行エージェントへ積極的な営業活動を行い、訪日外国人旅行者など宿泊客が増加しました。また、10月に宴会場を拡張し収容力の強化を図りましたが、前期にケーキショップを閉店したほか、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い宴会および宿泊のキャンセルが相次ぎ利用客が減少した影響などにより減収となりました。

以上の結果、その他の事業全体の売上高は31,226百万円（前期比0.1%増）となりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う売上の減少に対して固定費の削減が図られなかったことなどにより、営業利益は1,214百万円（前期比5.4%減）となりました。



2019年10月にオープンした
「ドトールコーヒーショップ日本橋馬喰町店」



2019年10月に拡張した宴会場「撫子の間」

連結損益計算書 (1)

単位:百万円

	2020年3月期	2019年3月期	増減	摘要	2020年3月期 業績予想 (2019年4月公表値)	増減
売上高	112,702	114,809	△ 2,106 (△ 1.8%)	一般旅客自動車運送事業 △2,093 自動車販売事業 +815 セグメント間消去 △777	114,900	△ 2,197 (△ 1.9%)
営業利益	5,329	6,606	△ 1,276 (△ 19.3%)	一般旅客自動車運送事業 △1,369 不動産事業 +192	5,760	△ 430 (△ 7.5%)
経常利益	5,470	6,789	△ 1,319 (△ 19.4%)	営業外収益 △22 営業外費用 +20	5,730	△ 259 (△ 4.5%)
特別利益	209	195	13 (6.9%)	固定資産売却益 +69 補助金収入 △56	140	69 (49.6%)
特別損失	1,153	631	522 (82.7%)	減損損失 +283 固定資産除却損 +248	770	383 (49.8%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,044	4,089	△ 2,045 (△ 50.0%)		3,240	△ 1,195 (△ 36.9%)
1株当たり 当期純利益	166.61円	332.64円	△ 166.03円		264.37円	△ 97.76円

減価償却費	6,758	6,379	378	
EBITDA	12,088	12,986	△ 897	※営業利益+減価償却費
資本的支出	13,480	8,679	4,800	

売上高

一般旅客自動車運送事業は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛などの影響により、乗合事業、貸切事業、乗用事業のいずれも利用客数が減少し減収。

自動車販売事業は、商用車販売事業において大型バスの代替需要が増加し増収。

営業利益

一般旅客自動車運送事業は、上記減収に加え、営業用車両や車載機器の代替などにより減価償却費が増加し減益。

不動産事業は、賃貸事業において、前期に賃貸を開始した「平塚市浅間町貸店舗」が通期寄与し増収となったことにより増益。

経常利益

営業利益の減少により減益。

特別利益

1	固定資産売却益	108百万円	車両売却益等
2	補助金	90百万円	乗合バス購入補助金等

特別損失

1	固定資産除却損	577百万円	バス営業所建替に伴う除却損等
2	減損損失	389百万円	店舗・商業施設他
3	固定資産圧縮損	88百万円	補助金による圧縮額

親会社株主に帰属する当期純利益

一部連結子会社の繰延税金資産の取り崩しにより減益。

連結貸借対照表

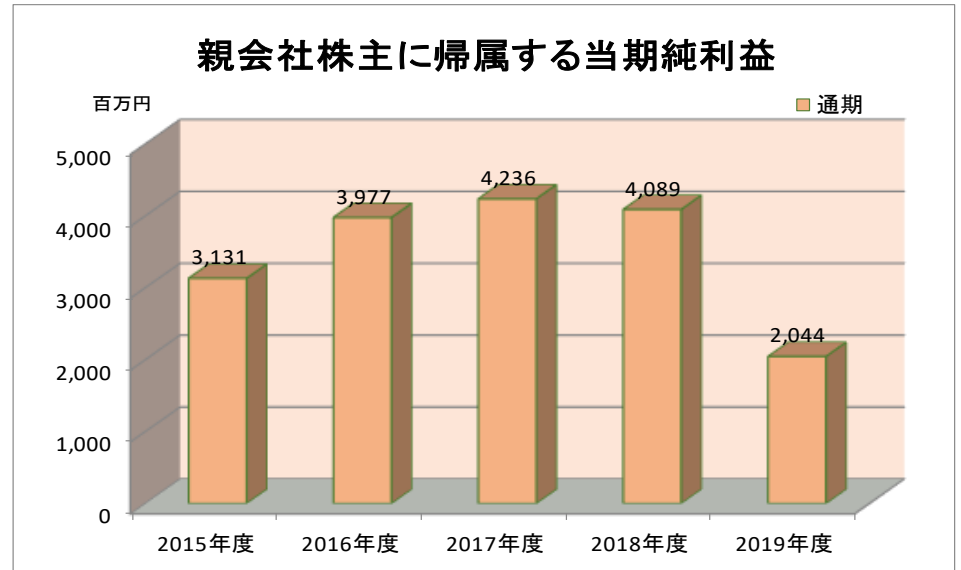
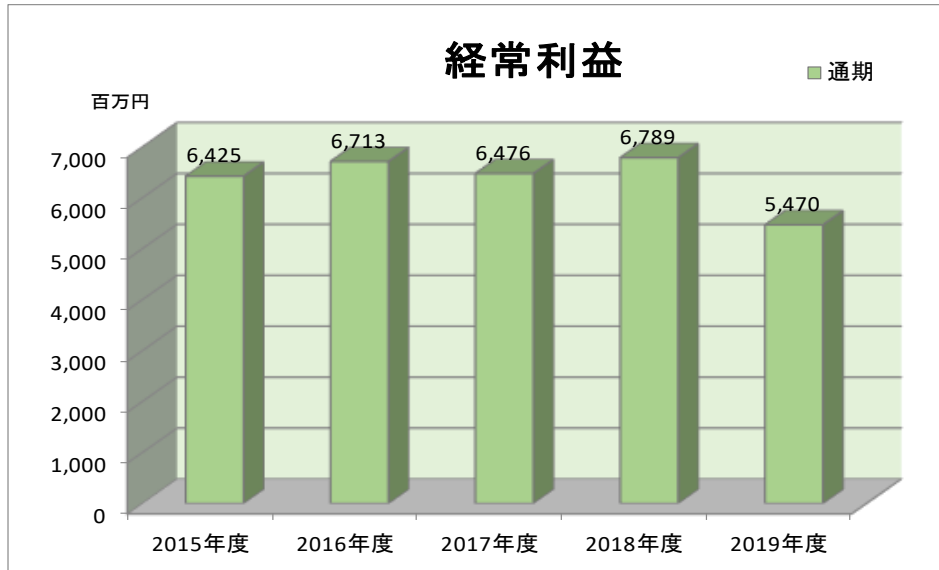
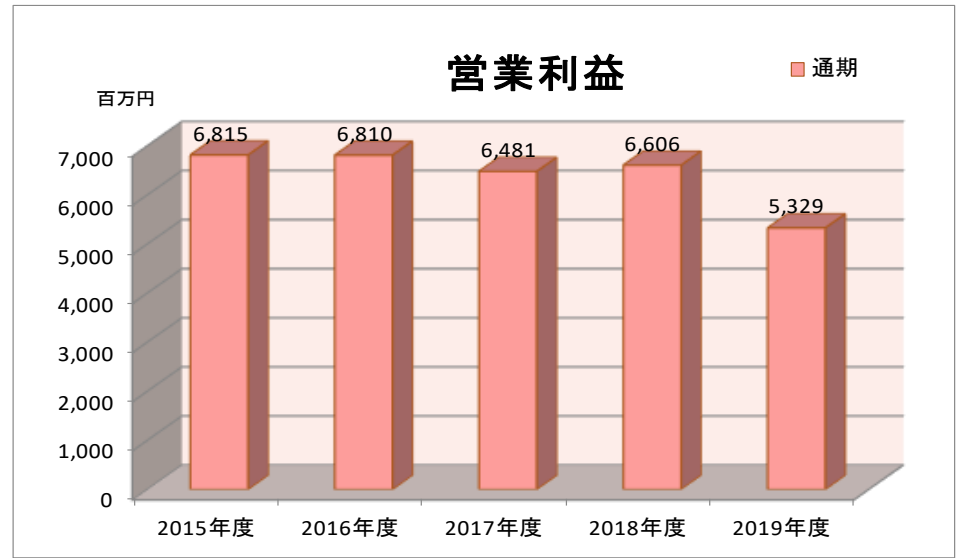
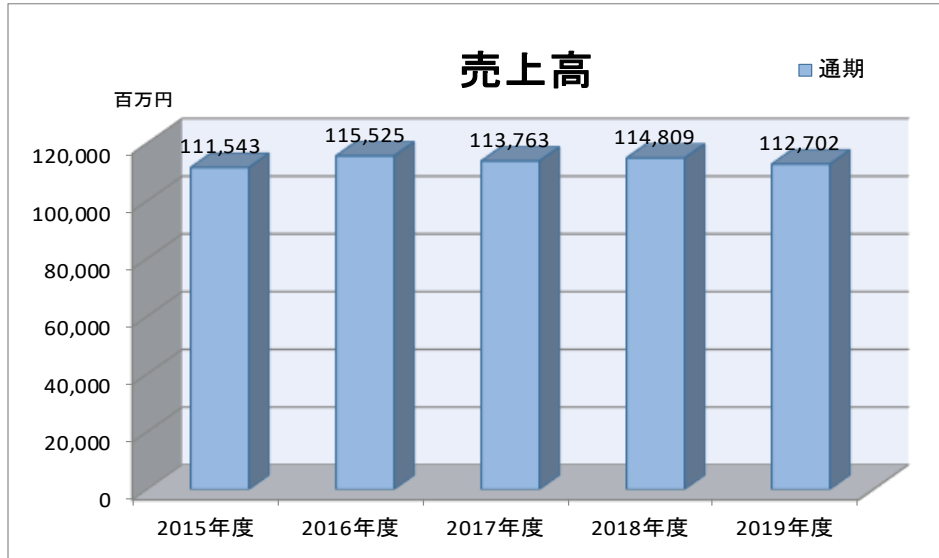
単位:百万円

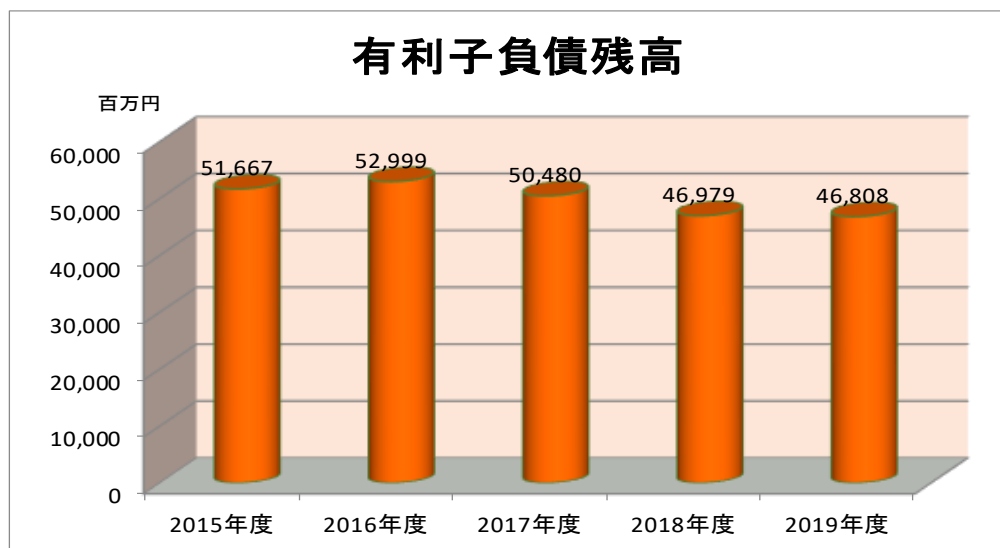
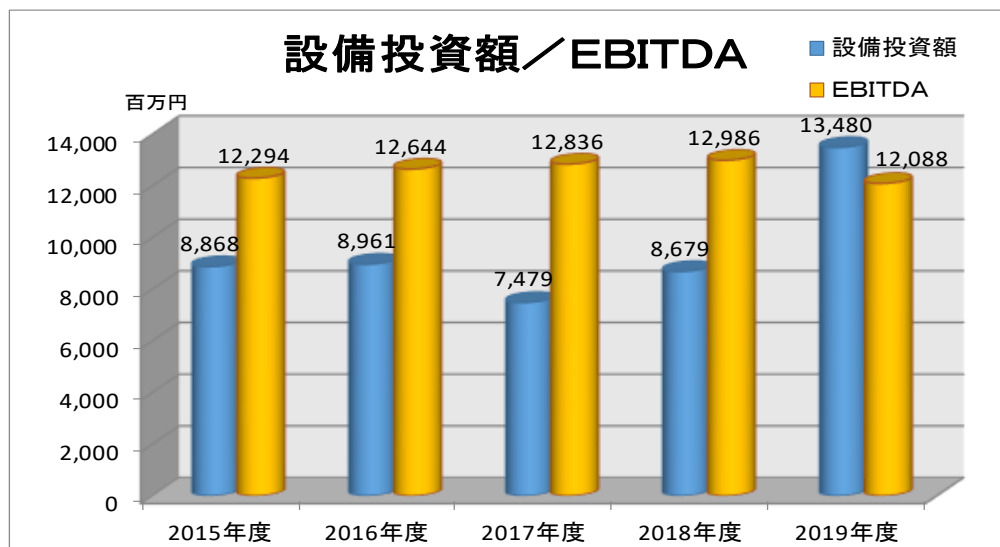
	2020年3月期	2019年3月期	増減	摘要
流動資産	21,185	22,256	△ 1,071 (△ 4.8%)	現金及び預金 △604 商品及び製品 △348
固定資産	134,969	130,920	4,049 (3.1%)	有形固定資産 +5,916 投資有価証券 △1,394
資産合計	156,154	153,176	2,978 (1.9%)	
流動負債	52,267	47,952	4,314 (9.0%)	短期借入金 +3,626 リース債務 +570
固定負債	43,330	45,159	△ 1,829 (△ 4.1%)	長期借入金 △3,797 リース債務 +3,013
負債合計	95,597	93,112	2,485 (2.7%)	
純資産合計	60,556	60,064	492 (0.8%)	利益剰余金 +1,523 その他有価証券評価差額金 △958
負債純資産合計	156,154	153,176	2,978 (1.9%)	

1株当たり純資産額	4,557.04円	4,533.08円	23.96円	
自己資本比率	35.8%	36.3%	△ 0.5P	
有利子負債残高	46,808	46,979	△ 170	

単位:百万円

	2020年3月期	2019年3月期	増減	摘要
営業キャッシュ・フロー	9,632	10,375	△ 742 (△ 7.2%)	税金等調整前当期純利益 △1,828 売上債権の増減額 +606 たな卸資産の増減額 +492
投資キャッシュ・フロー	△ 8,146	△ 4,937	△ 3,209 (△ 65.0%)	固定資産の取得による支出の増 △3,209
財務キャッシュ・フロー	△ 2,091	△ 5,110	3,019 (59.1%)	長期借入れによる収入の増 +2,450
現金及び現金同等物の増減額	△ 604	327	△ 932 (△ 284.4%)	
現金及び現金同等物の期末残高	2,191	2,795	△ 604 (△ 21.6%)	





※有利子負債:短期借入金+長期借入金+社債

神奈中グループ 子会社 20社、関連会社 3社
うち 連結子会社 20社
 持分法適用会社 2社 (大山観光電鉄(株)、(株)小田急保険サービス)

《主な連結会社》

【一般旅客自動車運送事業】

神奈川中央交通(株)、神奈中タクシー(株)、神奈中観光(株)

【不動産事業】

神奈川中央交通(株)、神奈中タクシー(株)、神中興業(株)

【自動車販売事業】

神奈川三菱ふそう自動車販売(株)、神奈中相模ヤナセ(株)

【その他の事業】

神奈川中央交通(株)、(株)神奈中商事、(株)神奈中スポーツデザイン、
(株)アドベル、(株)神奈中情報システム、横浜ビルシステム(株)

単位：百万円

	2020年3月期	2019年3月期	増減	摘要	2020年3月期 業績予想 (2019年4月公表値)	増減
売上高	57,155	59,249	△ 2,093 (△ 3.5%)	乗合事業 △1,111 貸切事業 △52 乗用事業 △929	58,950	△ 1,794 (△ 3.0%)
営業利益	1,469	2,838	△ 1,369 (△ 48.2%)	乗合事業 △1,001 貸切事業 △41 乗用事業 △325	2,030	△ 560 (△ 27.6%)
資産	62,598	60,036	2,562			
減価償却費	4,898	4,541	356			
減損損失	-	-	-			
資本的支出	10,468	5,838	4,630			

【対前年】

売上高は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛などの影響により、乗合事業、貸切事業、乗用事業のいずれも利用客数が減少し減収。

営業利益は、上記減収に加え、営業用車両や車載機器の代替などの設備投資により減価償却費が増加し減益。

※参考 乗合事業輸送人員

単位：百万人

	2020年3月期	2019年3月期	増減率	摘要
定期外	175	181	△ 3.3%	
定期	66	66	0.2%	
合計	241	247	△ 2.4%	

単位：百万円

	2020年3月期	2019年3月期	増減	摘要	2020年3月期 業績予想 (2019年4月公表値)	増減
売上高	6,577	6,671	△ 94 (△ 1.4%)	分譲事業 △238 賃貸事業 +144	7,170	△ 592 (△ 8.3%)
営業利益	2,619	2,427	192 (7.9%)	分譲事業 +43 賃貸事業 +149	2,470	149 (6.1%)
資産	42,286	42,699	△ 413			
減価償却費	957	961	△ 3			
減損損失	164	2	161			
資本的支出	851	1,197	△ 346			

【対前年】

分譲事業においては、藤沢市羽鳥のマンション分譲の販売戸数が減少し減収となったものの、賃貸事業において、前期に賃貸を開始した「平塚市浅間町貸店舗」が通期寄与し増益。

単位：百万円

	2020年3月期	2019年3月期	増減	摘要	2020年3月期 業績予想 (2019年4月公表値)	増減
売上高	31,801	30,985	815 (2.6%)	商用車販売事業 +982 輸入車販売事業 △166	31,480	321 (1.0%)
営業利益	289	297	△7 (△2.6%)	輸入車販売事業 △8	240	49 (20.6%)
資産	19,304	17,217	2,086			
減価償却費	288	306	△17			
減損損失	-	-	-			
資本的支出	1,449	327	1,122			

【対前年】

商用車販売事業において大型バスの代替需要が増加し増収となったものの、トラック販売において他社との競争激化により粗利益が減少し、わずかに増益。

輸入車販売事業においてモデルチェンジした新車の販売が順調に推移したものの、既存モデルの販売台数減少などにより減収減益。

※参考 新車販売台数

単位：台

	2020年3月期	2019年3月期	増減
トラック	2,128	2,051	77
バス	259	235	24
輸入車	514	505	9

単位：百万円

	2020年3月期	2019年3月期	増減	摘要	2020年3月期 業績予想 (2019年4月公表値)	増減
売上高	31,226	31,183	43 (0.1%)	サービス事業 +222、流通事業 +85 情報サービス事業 +56、飲食・娯楽事業 △204 レジャー・スポーツ事業 △169	31,960	△ 733 (△ 2.3%)
営業利益	1,214	1,284	△ 69 (△ 5.4%)	レジャー・スポーツ事業 △165 流通事業 +100	1,380	△ 165 (△ 12.0%)
資産	35,908	36,207	△ 299			
減価償却費	613	570	43			
減損損失	224	103	121			
資本的支出	971	1,523	△ 552			

【対前年】

売上高は、ビル管理事業における新規業務受注や流通事業におけるバスICカードシステム機器の販売により増収。

営業利益は、レジャー・スポーツ事業において新型コロナウイルス感染症拡大に伴うスポーツ施設の休業や温浴施設の利用客数減少などにより減益。

現時点では新型コロナウイルス感染症の拡大による業績への影響を適正かつ合理的に算定することが困難であることから、2021年3月期の業績予想の公表を未定とさせていただきます。今後、業績予想の算定が可能になった時点で速やかに公表いたします。

【問い合わせ先】

神奈川中央交通株式会社

総務部

TEL 0463-22-8800